



2022年12月20日

フォルクスワーゲン グループ ジャパン株式会社
アウディ ジャパン
プレスサイト <http://www.audi-press.jp/>

お客様問い合わせ 0120-598-106
アウディコミュニケーションセンター

カーボンニュートラルな生産拠点：サステイナブルな燃料を給油

- アウディは新車へ環境にやさしい R33 ブルーディーゼルまたは R33 ブルーガソリンを給油して納車
- R33 燃料は、化石燃料と比較して、CO₂ 排出量を少なくとも 20%削減
- 給油所の機器等、ハードウェアの変更は不要

(ドイツ本国発表資料) 2022 年 12 月 9 日、インゴルシュタット：アウディは工場から出荷される数多くの新車に、環境にやさしい R33 燃料を給油して納車します。工場に設置されている給油所の燃料を、昨年 R33 ブルーディーゼルに切り替え、その後、R33 ブルーガソリンも導入しました。これは、アウディが脱化石化に貢献し、気候目標の達成を支援するための方法です。

環境にやさしい R33 ブルーディーゼルは、2021 年 3 月からインゴルシュタットおよびネッカーズルム工場の給油所で採用されています。さらに今回、従来の E10 ガソリンを R33 ブルーガソリンに切り替えました。

再生可能な成分から作られた燃料の割合は？

R33 ブルーガソリンと R33 ブルーディーゼルは、残留物および廃棄物系の原料を使用した再生可能成分が 3 分の 1 の割合で含まれています。これらの燃料は、第 2 世代のバイオ燃料と呼ばれています。ガソリンの再生可能な成分は、エタノールなどの含酸素燃料 10%と、パルプ生産の副産物であるトール油などの残留物から得られるバイオナフサ 23%で構成されています。R33 ブルーディーゼルは、26%の再生可能なパラフィン系燃料、つまり水素化植物油 (HVO) と 7%のバイオディーゼルから構成されています。残りの 67%は化石燃料です。

R33 ブルーディーゼルと R33 ブルーガソリンによって、CO₂ 排出量がどのくらい削減されますか？

R33 ブルー燃料は、Well-to-Wheel (石油採掘から車輪まで) 分析において、化石燃料を使用したディーゼルやガソリンと比較して CO₂ 排出量が少なくとも 20%削減されます。近年、その数値はさらに上昇しています。燃料メーカーは、認定された環境プロジェクトに資金を提供することで、R33 燃料に残っている化石成分の環境への影響を改善するために、様々な取り組みを行っています。その目的は、地球規模の温室効果ガスの影響をさらに削減することです。そのような燃料の使用は、2025 年までに生産拠点のカーボンニュートラルを達成するというアウディの目標に向けた重要なステップとなっています。

再生可能燃料を使用できる車両は？

R33 ブルーガソリンは、ガソリンに適用されるヨーロッパ規格の DIN EN 228 に完全に準拠しています。これは、Super 95 E10 ガソリン (バイオエタノールを 10%混合したオクタン価 95 のガソリン) での走行が承認されたすべての車両が使用できることを意味します。R33 ブルーディーゼルは、今日最も普及している EN 590 規格を満たしているため、すべてのディーゼル車 (年式の古いモデルも含む) に使用することができます。R33 燃料は、特別な添加剤によって摩耗と耐用年数にプラスの効果をもたらすプレミアム燃料です。両方の燃料は、広範囲なエンジンテストおよび車両テストで一貫してポジティブな結果を達成しており、貯蔵安定性や沸騰挙動などの主要な数値で EN 228/E10 規格を上回っています。また、高品質な添加剤により、これらの再生可能燃料は非常にクリーンな状態になっており、エンジンの腐食が防止されます。

R33 燃料を開発した企業は？

アウディおよびフォルクスワーゲン グループは、鉱油メーカーおよびエネルギーサプライヤーと協力して、既存のエンジンと再生可能燃料（reFuels と呼ばれる）との互換性を確保するために、技術的な専門知識を提供しています。R33 燃料は、シェルおよびボッシュと協力して開発しました。

R33 ブルーディーゼルと R33 ブルーガソリンを提供しているガソリンスタンドは？

現在、R33 ブルーディーゼルは、アウディ、フォルクスワーゲン、ボッシュの各工場の給油所に加えて、既存の公共の給油所で利用できます。しかし、現在のところ、ドイツでは Super E10 と最大 7% のバイオディーゼルを含有したディーゼル燃料（ガソリンスタンドでは B7 という記号で表示）が標準となっています。鉱油メーカーは、既存の給油所に R33 ブルーガソリンを供給することも計画しています。これらの reFuels を使用する場合、給油所のハードウェア（機器類や給油装置等）に変更を加える必要はありません。

アウディが再生可能燃料の使用に取り組んでいる理由は？

アウディは、Vorsprung 2030 戦略でバッテリー式電気自動車（BEV）への移行に全面的に取り組んでいます。再生可能燃料は、内燃エンジンをより気候にやさしくすることで、この戦略を短期的に補完するものです。さらに、アウディの内燃エンジン搭載車の生産がヨーロッパで終了する 2033 年以降における、効果的な脱化石化手段でもあります。将来的には、アウディとフォルクスワーゲン グループは、既存の車両の CO₂ 排出量を削減するために、より多くの再生可能燃料を使用することを計画しています。

アウディは、ドイツの 2 つの工場で R33 燃料を使用することにより、これらの拠点における CO₂ 排出量をさらに削減し、2025 年までにアウディの生産拠点をネットカーボンニュートラルにするという目標をさらに前進させます。また、社用車からの排出量も拠点の CO₂ 排出量にカウントされるため、これらの再生可能燃料を使用することで、ドイツのインゴルシュタットとネッカーズルムの 2 つの拠点における CO₂ 排出量を削減することができます。

※本リリースは、AUDI AG 配信資料の翻訳版です。